

城南新報

発行所 ©
城南新報
〒611-0021 宇治市宇治里尻
TEL (0774)24-1221
FAX (0774)22-5754
E-mail jshinpou@ybb.ne.jp

宇治市断念、再び住民に軍配

開浄水場 府営水切り替え作業

猛抗議実り深夜3時前に決着

地裁仮処分判断まで市静観へ

宇治市の開浄水場を休止して府営水に切り替えるため、市水道部は21日深夜、職員ら20人余りを現地に派遣したが、住民らが抗議したため作業に入らず、22日午前0時半に撤収した。同日中に再度、切り替え作業に着手することが想定されたため、住民ら約100人が切り替えバルブを中心に監視を続け、その状況を確認した水道部が2時半過ぎに作業断念を地元へ通知。昨年6月に続き、再び住民に阻止された水道部は「休止を早急にしたい」という思いは変わらない。ただ、休止差し止めを求めた仮処分の訴状も届いた。仮処分の結果が出るまで次の行動は難しい」と京都地裁の判断を待つて対応することを示唆した。

水道部は21日午後11時から準備作業、翌0時から5時にかけて切り替え作業を行うとの通知に沿って午後11時半過ぎに職員、ガードマンの20人余りが水道庁舎を出発。11時50分頃、開町内の児童公園に到着し、住民らが取り囲んだ。住民らは「提訴している。道理に反する」「帰れ」「話し合いは済んだのか」などと職員に詰め寄ったが、前回(昨年

6月)のように怒号が響くようなことはなく、比較的冷静なやり取りを展開。現場責任者の小西水道部長は「公務であり、実施したい」「道を開けてほしい」「話し合いは十分してきた

など」と執行への協力を求めた。

が、住民らが「皆、切り替えバルブの上に立っている。強行してケガ人が出るなど不測の事態が生じた時の責任は取ってもらう」として現場状況を確認するように説得。小西部長と前野次長が切り替えバルブを見て回り、1力所あたり20数人がいる状況を確認した。

市は正式断念を受け、3時過ぎから開地域福祉センターで集会が開かれ、分散していた住民ら約90人が終結。厳寒のなか監視を続けたため、疲労の色は隠せなかったが、再び水道部の実力行使を食い止めたことで満足感を滲ませた。第2次水道問題対策委員会の木村正孝委員長は「皆さんの力で、またやつけたとお礼を述べ、住民らが「皆さんの熱意、実行力に涙が出る」「全員の力として将来も大切にしたい」と感想。開地区自治連合会の俊正和寛会長は「試練を経て、私たちが強くなり、行政を変えよう。民主主義は

を回っても住民が警戒など」と執行への協力を求めた。

つても力を緩めず、強い決意で彼らを迎え撃」と述べ、「頑張ろう」の掛け声とともに地域結束を図った。

水道庁舎に戻った市は断続的に会議を開き、対応を協議。午前2時を回っても住民が警戒

2度の失敗は今後の行政運営の在り方を含め、大きな課題を残したと見てよく、12月に市長選を控えるなか、久保田勇市長の真価が問われる3度目への対応が注目される。

を回っても住民が警戒